

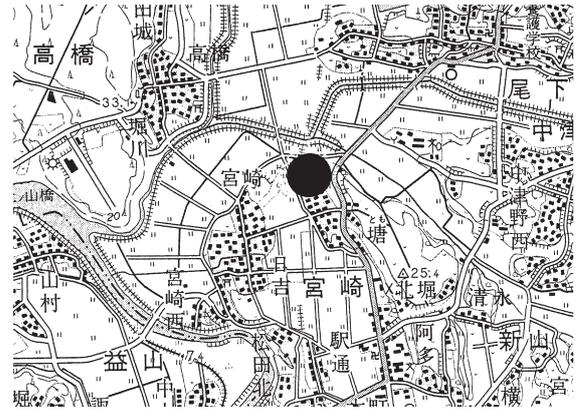
(日置郡金峰町宮崎字上焼田)

位置と環境

遺跡は、役場より南西側約1kmで、中岳から北西側へのびる長さ約1.5km、最大幅約500mの宮崎台地の北端部に位置し、標高約15mの舌状台地北側傾斜面に所在している。周辺部は水田地帯である。

調査の経緯

昭和49年、県営圃場整備事業に伴い、事業者との協議の結果、県教育委員会は当該地区の分布調査を



第1図 上焼田遺跡の位置



写真1 遺跡近景



写真2 抜歯人骨

実施した。その結果、周知の遺跡を確認した。調査対象面積は、400㎡である。昭和50年（1975）に県教育委員会が本調査を実施した。

遺構と遺物

本遺跡は、縄文時代前期の縄文式土器を主とする貝塚で、土地が削平されているために、地表下10～50cmで貝殻が露出する。貝層は薄く、まばらに広がっており、中にひとかたまりずつ集積している。

縄文時代晩期の人骨が2体あり、1体は楕円形の穴に仰臥屈葬の形で埋葬された身長151cmの熟年男性である。下顎骨の左右門歯・犬歯・第1小白歯の八本の歯を人為的に抜いた風習性抜歯が行われている。あと1体は散乱状態であった。

土器は、縄文式土器のほか縄文時代早期（塞ノ神B

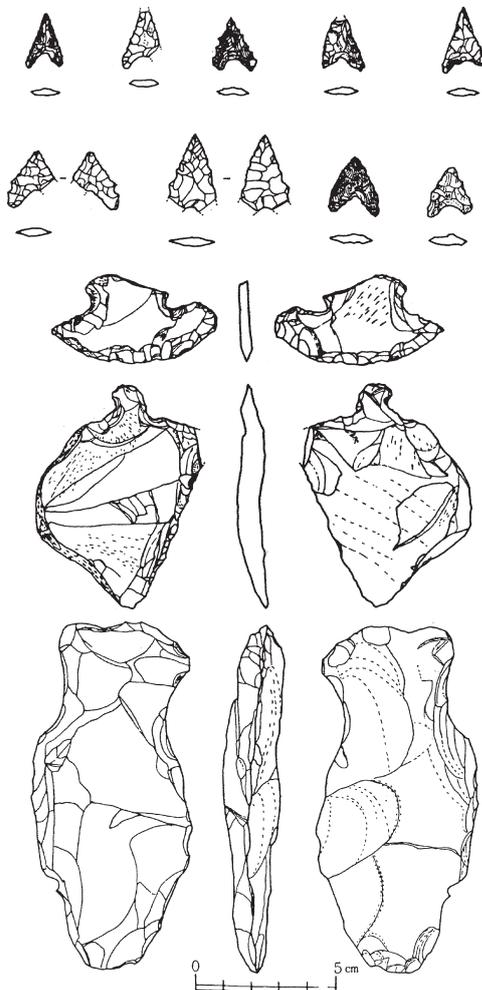


第2図 前期の土器

式) 中期(春日式), 晩期(黒川式・夜臼式) のものが出土している。

石器は, 石鏃が101点と多量に出土しており, ほかに打製石斧, 石匙・石錐などが出土している。石鏃のほとんどは二等辺三角形をし, 基部にくり込みがあり, ほかに平基式のものが数点ある。えぐりには浅いものと深いもの, U字状のものとV字状のものがあ, ほかにサメ歯状をなすもの, 五角鏃となるもの, 鋤先状のもの, 剥片鏃, 細石鏃, さらに尖頭器様の大型のものと多様な形をしている。石匙は横型が6点, 縦型が1点であり, 横型のつまみはほぼ中央にある。石斧には打製石斧4点, 局部磨製石斧2点, 磨製石斧2点がある。ほかに石錐1点, 敲石5点があるが, 剥片を加工しスクレイパー様にしたもの, 尖頭器状にしたものもある。

軽石が多く散在しているが, そのうちの2点にすり鉢状のくぼみが見られる球状耳飾りが2点あり, 1点は扁平な円形のもので半欠品である。あと1点は指貫状のものでともに蛇紋岩製である。



第3図 石器

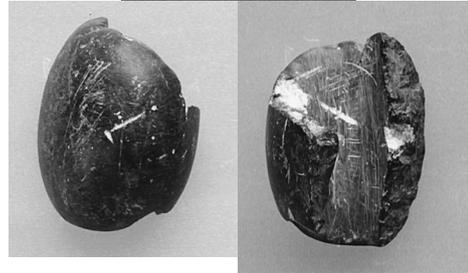


写真3 球状耳飾り

獣骨はシカとイノシシのみで, シカが80%と圧倒的に多い。

貝殻はハマグリが79%と圧倒的に多く, ほかにカキ・オキシジミなどがある。貝殻を使用した年代測定で約4千年前という年代が出ている。

弥生土器には入来式・須玖式・松来菌式土器など中期から後期のものがある。

3.8m×3.3mの長方形プランをもつ深さ40cmの古墳時代の竪穴住居跡があり, 甕形土器・壺形土器・鉢形土器・砥石などが出土している。

このほかに須恵器の甕と青磁碗も少量出ており, 古代・中世の生活跡も見られる。

特徴

- ・南九州では数少ない縄文時代前期の貝塚である。
- ・縄文時代晩期の抜歯人骨は南九州本土では唯一の報告例である。
- ・石器で石鏃が圧倒的に多く, 石皿の出土がない。
- ・球状耳飾りが2点出土している。

資料の所在

出土遺物は, 鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管されている。

参考文献

鹿児島県教育委員会1977「指辺・横峯・中之峯・上焼田遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』(5)

(池畑耕一)